

いつも温かいご支援をありがとうございます

ご寄附を頂戴した方々（敬称略・五十音順）

【令和2年2月～同3年2月（職員を除く）】

【個人様】

秋岡壽 岩片明美 岡田功 岡村俊一 恩田信也
金附恵美子 木本博朗 坂岸謙一 佐藤直樹 澤田靖弘
シーマーマーク 調龍信 中村誠 西山正人 原田あつよ
菱本貴弘 福尾剛志 藤田雅外 藤本智恵子 増井スミ子
松本久子 村井基修 村瀬正 柳川榮子 山中清 山本剛士
行田政美 吉岡巧 ミナニサチアレ(匿名希望) 東淀川(匿名希望)

【団体様】

秋岡・西代医院 朝倉歯科医院 (株)アサヒディード
(株)アピスファーマシー 税理士法人あらたす 茨木地区更生保護女性会
茨木北摂会 大阪教区仏教婦人会連盟がナ委員会
大阪キリスト教短期大学 (一社)大阪電業協会
(社福)大阪府共同募金会 大阪府こども室(三菱ふそう)
(社福)大阪府社会福祉協議会(万代) カイエダ建設(株)
加勢本建鉄(株) 勝部建設(株) 慶徳寺 佐竹食品(株)
(有)シライサービス 浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金
辰見医院 田中歯科クリニック
中谷カルナー財団 西日本マテリアル (株)For it
丸山鍼灸院 (株)北部市場運送

職員顕彰 勤務年数20年法人表彰

光華苑 阿部 健二郎 林 松子 ふじい 谷村 久美子
しみず 吉見 ますみ 常清の里 伊達 正典
慶徳会ケアプランセンター 中谷 加代

※コロナウイルス感染予防対策として、一同に集まるのを避け、施設毎で顕彰を行いました。

老人福祉法の制定や高齢化の進捗に伴い、ご夫妻往生の後もそのニーズに沿って特養等入居型施設の整備とともに茨木市で初となるデイサービスを始め在宅サービスにも着手し、順次拡充していきました。また、この間に障がい福祉事業の取り組みも始め、法人として三種別の事業に携わることになりました。

三 介護保険制度導入後の事業

超高齢化社会の到来を踏まえ、介護保険制度が導入されたことに伴い、福祉サービスがご利用者との契約による「選ばれる事業所」となるよう取り組みを進め、グループホームや小規模多機能センター等地域密着型事業所の拡充やサービス付き高齢者向け住宅を新設し、ご利用者を選択して頂く事業所種別を広げるとともに、入居・通所事業を問わず、サービスの質の向上に向けた職員のスキルアップにも力を傾注しています。

併せて、高齢者対象の相談体制として法人内複数のケアプランセンターを統合して特定センターとして整備し、茨木市から受託の認知症支援事業やCSW事業と連携して地域相談支援センターについても新年度2カ所目となる運営を開始します。



事業統合後の「しみず」新館

模範児童養護施設の整備や本体施設のユニット化に着手しています。

以上、創設以来の時期別に事業等の概略を述べましたがどの時期を通じても創設者ご夫妻のご意思を生かすよう全役職員が努めてまいりました。皆様から、それぞれのお立場で90周年を迎えてのご感想やご意見をお待ちしております。

茨木・中条エリア 地域包括支援C事業受託へ

～「常清の里」に続き2カ所目～

このたび茨木市が「茨木・中条エリア」に新たに地域包括支援センター運営受託先法人を公募し、慶徳会として企画提案を行い、その結果、当会の提案が採用され、令和3年度から運営受託の予定です。

同センターは、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して過ごすに頂けるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを推進することを目的として設置するもので、茨木市は令和5年度までに14カ所を整備予定としています。

本事業は、平成20年4月から常清の里ですでに受託実績があり、法人としては2カ所目のセンターとして、茨木市役所近くの駅前3丁目で新事務所を開設予定します。

センターの体制は、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師及び介護支援専門員で構成し、これらの職員が一丸となつて、地域の皆さまのご要望にお応え出来るよう努めてまいります。

詳細につきましては、センターのオープンまでに改めてお知らせする予定です。

社会福祉法人 慶徳会のホームページ <http://www.keitokukai.or.jp>

慶徳会は今年で創立90周年を迎えます。大きな節目を迎えるにあたり、長い歴史を刻んできた本会の歩みを振り返りつつ、将来の展望を拓けていく記念すべき年にしたいものです。そこで改めて事業足跡の概略を紹介させて頂くことで、慶徳会の理念や事業運営方針について考えて頂く機会になれば幸いです。

一 創世事業

慶徳寺のご住職、藤井教恵先生が奥様の静野先生とともに、福祉事業に取り組まれたのは、昭和6（1931）年のことで、事業創設されたのは、「農繁期の託児所」でした。その時代の農家の繁忙時期（田植えや取入れの季節）は、子



奥様の
静野先生



初代理事長
藤井教恵先生



二代目理事長
了貞先生

理事長 大和 治文

慶徳会創立90周年を迎えて

どもからお年寄りまで、文字通り一家総出の大作業でしたので、日頃の様子を藤井ご夫妻が見るに見かねて、ご自分達のお住まいであるお寺の庫裡を開放されて農家の幼児を対象に開かれたのが「農繁期託児所」です。これは、ご夫妻が仏教精神を基盤とした「（現生・後生を通して）生かされていることへの感謝」のお気持ちに端を発せられたもので、その後間もなく保育園を開所、託児所も3カ所に広がりましたし、先の大戦末期から母子寮の運営などにも参入し、主として児童への支援を中心に事業を進められました。



保育園で笑顔一杯の子ども達
(中央：教恵先生、左端：静野先生)

二 大戦後の社会福祉制度整備時期の事業

大戦後は、公的制度を活用しての支援活動強化され、児童の事業では「児童養護施設」開設の一方、高齢の方を対象とし



多くの方の期待に応えた春菊荘別館

て、生活自立が困難な方々の生活の場として「養老院」（現養護老人ホーム）を開園されました。

このように、児童・高齢者の分野でも厳しい状況に置かれている方々への支援に重点を置かれる一方で、少し生活にゆとりのある高齢者を対象とした有料老人ホーム（住宅型）や低所得の方が利用できる軽費老人ホームの運営にも事業

新型コロナウイルスの感染拡大が続
き、福祉教育機関での介護実習が軒並
み中止となっている状況を踏まえ、大
阪府社協を介して大阪此花区の昇陽高
校から「何とか施設を身近に感じられ
るように現場の声を学生たちに伝えて
ほしい。」として、光華苑・春菊苑が
同校への出張授業の
依頼を受けました。

高校に出張授業 ～「コロナ禍」での介護実習支援



熱心に出張授業の打ち合わせをする
見市さん（左）と田淵さん

苑としては、学生
達も一緒に考えても
らえるような、より
身近で実践的な内容
が適切と考え、見市
えり子主任栄養士と
田淵幸恵介護職員を
講師として「高齢者・
認知症の方の食事」
をテーマとして授業
を行うことになりま
した。

令和2年12月1日

に福祉科福祉コース3年生20名、同月
10日に2年生24名を対象に、感染防止
対策を万全にした上で、「おもしろく・
わかりやすく」を心がけ学生と対話し

ながら進めていきました。

認知症状によって食行動に特徴があ
り、それを踏まえた食事援助の方法に
ついて苑でのご利用者とのエピソード
を交えながら学生にもイメージしやす
いように工夫しながら話しました。

また、授業の後半に行った嚥下困難
な方の介助を想定した演習では、お

茶に加えるトロミ
剤の多少によっ
て、どれ程飲み
易さが変わるか
を体験してもら
いました。学生
からは「入れ過
ぎるとこんなに
飲みづらくなる
とは思っていな
かった!」、「何で
ダマになるの?」
など、様々な反応が返ってきました。

締め括りに「食べること」は、生き
ていくために欠かせない大切な行為で
あることは勿論、楽しみや生きがい
につながり、また、

要介護状態・重度化
を予防するために
も、ご利用者と関
わる全ての職員が情
報共有のもと連携し
ながら支援させて
頂いていることなど
を伝え、2日間の出
張授業を終えまし
た。

華

第63号

令和3年3月発行

編集 慶徳会広報室
〒567-0035 茨木市見付山1丁目3-29
電話 072-665-5165
FAX 072-665-5166

皆さんに「私の作品あったよ!」知らせてくれたり、
気に入った作品の前でじっと見入られる方など様々な
パフォーマンスが見られましたが、皆さんの自信と充
実感に溢れた笑顔がとても印象的でした。

急な企画で、案内をごく
内輪にさせて頂いたにもか
かわらず49名のご家族がご
来場下さり、「来てよかった」
「普段とは違う表情が見られ
た」「いろんなことを経験さ
せてもらってありがたい」等
のご感想も頂き、はがきや
コースターなどの「芸術作
品」が人気で皆さんには随
分とお持ち帰り頂きました。
（この様子だと来年から販

売を検討しては?」とは、法人本部からの影の声です。）
今回の作品展は初めての試みで、コロナ禍の厳し
い情勢下でのイベントでしたが、「とても愛の溢れる
幸せな作品展」となって、大変ご好評でしたので、
次回も是非開催してほしいとの嬉しいご要望も頂戴し
ております。



「作品展」で賑わう訓練室
「しみず秋華祭作品展」
が大好評



「コロナ禍」で法人内外の各種行事の見送り等が続
く中、障がい者サポートセンター「しみず」では、ご
利用者の日ごろの活動を何らかの形で披露が出来た
らと願い、新型コロナ感染拡大防止のためご案内は
ご利用者ご家族、そして
「しみず」に直接かわる
役職員などに限らせて頂い
た上で、令和2年11月25
日～27日の3日間に「し
みず秋華祭作品展」を開
催しました。

「れふあ」の子ども達や
「しみず」のご利用者のみ
なさんが紙をすいて製作し
たはがきや玉ねぎなどの皮
を使った染め物などの展
示、ご利用者が描いた絵画や創作品などを展示しま
した。また、作品づくりの様子や「しみず」や「れふあ」
での普段の活動状況を紹介した写真も展示しました。
会場が作品で一杯になると「アーティスト達」は大
喜びで、ご自分の作品がどのように展示されているか
一つひとつ丁寧に探していき、見つけると、会場の

「コロナ禍」によって、日常生活上
の制約が続く中、真華苑では、年
始
めを迎えるにあたり、少しでも気分
転換して頂くとうと元日に開催する新
年会の計画を立てました。

この間、ご利用者間の交流も控え
めにして頂いていますので、「自由席」
で召し上がった頂
く新年会時には、

「密」にならない
よう配慮しなが
らも、交流を深
められるよう、
ご利用者懇談会
で皆さんにご希
望をお伺いた
上、座席レイア
ウト等の見直し
を行いました。

「コロナ禍」で迎えた新年

～真華苑～



「特製のおせち」



熱心「おせち」の詰合せ
をされるご利用者

希望者にご自分
の「おせち料理」
の詰合せをして
頂いています

今年5名の方の参加があり、詰め
終わった「おせち」を前に達成感と共
同作業によるコミュニケーションが深
まるとともに、周りの方も「ご自分
流の特性おせち」を目にして、話題
も広がります。

元日の午前11時半から新年会が始
まりますと、日頃から気の合う方々
や中には同性同士でテーブルに着か

令和3年4月から茨木市が「茨木市
東保健福祉センター」を「西河原デイ
サービスセンター」内に併設すること
に伴い、同2年10月1日から市と協働
して西河原のデイ・フロア改修工事を
実施しました。

工事の44日間、デイ・フロア等が使
用出来ないで、隣接の「多世代交流
センター」の大広間を活用してデイ
サービス事業を実施しました。
調理や入浴サービスについては、デ
イサービスの設備を使用するため、移
動の導線上の安全確保などについて、
特に入念にコミュニケーションを行い、市
や工事関係者と事前協議を重ねたこと
により、事故等も発生することなく事
業継続が実現しました。

新フロアへの引越し前には、床洗
浄等を施し、長かった工事期間中の労
苦を噛みしめ、新西河原に期待に胸を
膨らませながら職員一同、心新たにス
タートしました。

広さは、定員規模を十分満たし、狭
くなった分、却ってこじんまりしたアッ
トホームな雰囲気となり、ご利用者の
感想も上々です。

また、市の施工でエアコンの総取り
換え工事も行われましたので、とても
20年が経過した建物とは思えない綺麗
でスッキリしたフロアに生まれ変わっ
ています。

ご利用者のご要望に沿って、これま
までおり運動マシーンや平行棒といっ
た器具を設置したところ、さっそく熱

～西河原～ デイ・フロアのリニューアル

心運動に取り組まれる姿もあり、
「やっぱり、（多世代大広間でなく）こっ
ちが落ち着くわ」と、皆、安堵され
ている表情が印象的でした。
両センターのご利用者にご協力頂
き、改めて、心から感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大から
1年が経過しようとしておりますが、
センターもフロアのリニューアルと
ともに、オゾン除菌機器、飛沫防止パー
テーションの設置、職員は法人感染症
マニュアルに沿ったマスク、フェイスシ
ールドの着用等、より安心・安全にご利
用頂けるよう万全の予防体制で臨んで
おりますので、これからも西河原デ
イサービス及び多世代交流センターをよ
ろしくお願い申し上げます。



新装後のフロアで
くつろぐ皆さん



熱が入るリハビリ体操

室内ボウリングを楽しむ

「介護職員初任者研修」

通算第10回となる「介護職員初任者
研修」は、令和2年9月5日に開講し、
法人内職員2名を含む3名の方に受講
して頂きました。

残暑の厳しい時期から木枯らしの吹
き始めるころまで、皆さんお勤めをさ
れながらでしたがこの間、新型コロナ
感染予防に腐心されながら一日も休ま
れることなく、12月19日の修了式を迎
えて頂きました。

受講者全員の完全出席は、この研修
では初めての快挙ですが、研修日最終
に行ったテストの成績で満点又はほぼ
満点の成績となり、この面でも記録的
な成果をあげて頂きました。

理事長から修了証書を授与された後、
皆さんは、研修受講を通じて介護の基
本を学べた喜びとこれからの仕事に生
かしていきたいという思いを熱っぽく
話されていました。

今年度

は、文字
どおり「少
数精鋭」
の受講者
によって研
修を盛り
上げて頂
きました。



初任者研修生
修了証(明)書を授与され
喜びの皆さん



実務者研修生
(マスクをとってカメラに)

「介護職員実務者研修」

令和2年7月1日に開講した
実務者研修は、6回のレポート
提出及び10月から9回のスク
ーリングが行われ、受講者に12月
12日(土)に修了証明書が授与
されました。

授与式では、規定された
450時間に及ぶ科目を履修し
た上、12時間の医療的ケア演習
について、全過程を修了された
6人の受講生が、晴やかな笑顔
で修了証明書を受け取られてい
ました。

長期間の厳しい研修を終えて
ホッとされる一方で、年が明けて
間もなくに予定されている国家
試験に向けて気の抜く暇のない
方もありました。国家試験には
経験年数条件等を満たす3人の
方が受験されました。

「コロナ禍」の当初対策として、
学校が昨年の春休みから約3カ月の
休業となったことに伴い、子ど
も達の今年の冬休みはいつもより
短くて約10日間となり、外出等
も制限がありましたので、休み期
間中の生活への影響を職員一同心
配をしていま
した。

しかし、
子ども達は
知恵をし
ほつてこの
ような状況
でも楽しく
過ごせるイ
ベントをそ
れぞれが考
えてくれま
した。

『子供の家の冬休み』



「縄跳び大会」



「クイズ大会」

「二つ目がAちゃん(小5女子)
企画の「縄跳び大会」です。その
日のために練習を頑張ってきた子
が緊張して数回で引つかかってし
まい悔し涙を流す姿や逆に練習時
には出来なかった成果が出て大喜
みとなりました。

ど、いつもと違うゲームの雰囲気
に子ども達は大喜びでした。
当初はどうなることかと心配を
した冬休みでしたが、終わってみ
れば工夫をして出来ることを企画
し、それを全力で楽しむという大
切なことを改めて子ども達から教
わった、とても想い出に残る冬休
みとなりました。